


 巻頭言

茶畑から「植物防疫」を考える

 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
 果樹茶業研究部門

 さ とう やす し
 佐 藤 安 志


私が勤務する農研機構金谷茶業研究拠点は、静岡県の大井川西岸・茶どころで有名な牧之原台地上にあります。前身は1896年に東京西ヶ原に創立された農務局製茶試験所。1919年に国立茶業試験場として現在地に独立し、以来、統合や独法化、組織改編等を繰り返しながら移転後100年を超え、間もなく「茶寿」を迎える試験研究機関です。最大の特徴は、これまで一貫して組織名、所掌に「茶業」をいただいていること。それ故他の専門分野/場所に比べ行政や業界との結びつきが強い分野/組織であると言えます。

私事で大変恐縮ですが、2年前、縁があつてかなかつたのか、この茶業全般に関わる試験研究開発をマネジメントする職を仰せつかりました。それまで、モノ言わぬ虫たちに何かを語らせ、いかに彼らを宥めすかすかを探り過ぎてきた身にとって、時に伝統や文化までも背負ってモノ言う人々との調整の日々は、常に新しい驚きと挑戦の連続でもあります。勢い行政や業界の皆様方とこれまで以上の連携を図りつつ、人の世の仕組みや仕掛けについて考えることが日常となりました。今回はそんな「お茶畑」から「植物防疫」を眺めてみたいと思います。

「茶業」分野では、業界や行政と連携した様々な取り組みの伝統があります。例えば、今年で79回を迎える「全国茶品評会」などのお茶の品評会・審査会での第一席にとどまらず、同じく72回を迎える「全国茶審査技術競技大会」では審査技術の最優秀者にも「農林水産大臣賞」が授与される等、茶業および茶文化の振興にも関する行政の厚い支援が伺えます。次に、「植物防疫」や「農業行政」にも目を転じてみましょう。金谷茶業研究拠点では、毎年6月に、茶の薬臭審査会が開催されます。1962年から続く長い歴史を持つお茶に特有なこの審査会は、農薬を散布した茶葉に残る薬臭の有無に関する科学的知見の取得を目的に自主的に開始されましたが、現在ではその基本事項や試験方法が農林水産省の局長通知で定められ、農薬登録の申請に必要な薬害試験の一つに位置付けられています。これは、関連法制や国の施策が業界の適正化や振興のためにあるのであれば、科学的な根拠を持ってこれらと協調して行くことが試験研究機関の重要な役割の一つとの考えによるものです。

さて、本年4月に閣議決定された新たな「食料・農業・

農村基本計画」には、近年の気候変動に伴う病害虫の発生パターンの変化や薬剤抵抗性の顕在化への対応、環境負荷の軽減化と持続的・効果的な防除の両立等を図るため、化学農薬のみに依存しない「予防・予察」に重点を置いた総合防除（IPM）の一層の推進と現場浸透の必要性が明記されています。ここでは、改正植物防疫法に基づき、病害虫を効果的に防除するための地域の防除体制や総合防除実践マニュアルの整備、新たな防除体系を普及するための取組の支援、病害虫抵抗性品種、生物防除資材、ICTを活用した発生予測技術等のスマート農業技術を活用した研究開発の推進およびその導入等を、指導者を活用しつつ、よりわかりやすく、使いやすい形で普及するとしています。茶では、これまでに合成性フェロモンを使った発生予察法や交信攪乱法、顆粒病ウイルス製剤、複合耐病性品種等の化学合成農薬代替技術の開発と体系化が進んでいます。輸出相手国の検疫基準に沿ったIPM体系や有機栽培対応型のIPM体系の取り組みも行われています。こういった体系下では、防除圧の変化に伴う潜在病害虫の顕在化やその対策についても検討する必要がありますでしょう。また、国際物流の拡大や多様化が著しい現在にあつては、新害虫チャトゲコナジラムの例に見られるように、茶であっても侵入病害虫対策のリスクは相応にあると考えるべきでしょう。

最後に、本年4月に農林水産省が策定した新たな「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」を紹介します。この基本方針は、都道府県や茶業関係者の今後の産業振興政策や事業展開の指針として整理されましたが、ここに初めて「総合防除」、「技術の開発・導入・普及を担う人材の確保」の文言が織り込まれました。これにより、今後、お茶分野では、上記のような様々なニーズに対応したIPMだけでなく、総合的生物多様性管理（IBM）、総合的薬剤抵抗性管理（IRM）、さらには多様な国内外のニーズに対応するための高品質で高付加価値のお茶の持続的安定生産を目指す総合的作物管理（ICM）等を目指した試験研究開発の推進の加速化が期待されます。なお、この基本計画で掲げられた将来像は「お茶で世界を魅了し、次世代へ茶業・茶文化を継承」です。我と思わん皆さんはどうぞ「お茶畑」にお集まりください。「お茶畑」から日本の「植物防疫」を世界に発信して行く、そんな未来を皆さんと一緒に夢みたいと思います。